

科目分類	専門職の教育			開講学科	看護学科
科目番号	学年	配当セメスター	区分	単位数	授業時間数
73115	2	後期	必修	2	90
授業科目名 (英文)		基礎看護援助実習Ⅱ（クリティカルシンキング実習） (Clinical Practice in Fundamentals of Nursing Ⅱ)			
担当教員名		宮本 千津子／吉田 澄恵／篠木 絵理／阿部 恭子 小黒 道子／清水 準一／山本 由子／川村 牧子／遠藤 亜貴子 田久保 由美子／山花 令子／安藤 瑞穂／平田 美和 大西 淳子／新井 麻紀子／藤巻 郁朗／田所 由利子 崎山 紀子／増澤 祐子／伊能 美和			
授業の概要及び到達目標					
本科目では、学生が臨地において患者を受け持ち、対人関係を築くとともに、既習の知識、技術を用いて、当該患者の発達段階、生活習慣、健康レベルなどの背景から身体的・心理的・社会的状況をアセスメントする。そして当該患者の課題・問題、目標を明確にし、看護援助を計画し実施するという一連の看護過程を実践する。さらに医療の協働の場を体験し、看護の役割、機能について再考する機会とする。 【到達目標】 - 看護援助を受ける人びとに関心をもち、理解を深めることができる。 - 看護援助を受ける人びとに関心を持って関わることができる。 - 関わり等を通して、看護援助を受ける人びとの理解を深めることができる。 - 既習の知識、技術を用いて看護援助を受ける人のアセスメントをし、アセスメントを基に、看護援助を受ける人に必要な援助計画を立案し、実施・評価できる。 - 看護援助を受ける人にとって優先度の高い看護問題について、バイタルサイン測定、必要なフィジカルイグザミネーション、日常生活援助を看護師と共に提供しながら、アセスメントを行うことができる。 - アセスメントを基に援助計画を立案し、看護師と共に実施することで、合目的・安全・安楽・自立の視点から評価ができる。 - 看護実践を通して医療の協働・連携について知り、看護の目的・役割・機能について考えを深めることができる。 - 看護援助を受ける人への実践を通して、他職種との協働・連携について理解できる。 - 看護の目的・役割・機能について協働・連携の学びとつなげて理解できる。 - 看護実践の場において求められる倫理的態度を養うとともに、主体的に学習できる。 - 看護を実践する者として倫理的に配慮した行動がとれる。 - 自らの実習での実践を評価し、次の課題を明確にし、取り組みの方向性を示すことができる。 - 実習における経験を共有し、相互に学ぶことができる。					

準備学習等	
予習復習について ・基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、クリティカルシンキングⅡで学習した内容を復習して実習に臨むこと。 ・フィールド学修ハンドブック、基礎看護援助実習Ⅱ要項をよく読み実習に臨むこと。 ・実習後は評価表や面談で明らかになった知識的な課題部分について、教科書、参考書、授業資料等を用いて復習しておくこと。	
成績評価の方法	学習内容別評価基準に基づく評価 90%と最終レポート 10%とし、総合的に評価する。 なお、欠席および遅刻は減点とする。
テキスト	指定しない
参考図書	看護学概論・基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳで使用するテキスト
備考	・本科目を履修するには、基礎看護援助方法Ⅰ・Ⅱ、クリティカルシンキングⅡの単位修得が必要である。 ・本科目は、臨床看護学実習（急性期・慢性期）の履修前提条件となる。 ・オフィスアワーは、履修案内の看護学科「オフィスアワー」の項をご参照ください。
授業計画	
実習日数：2週間 実習場所：JCHO 船橋中央病院、JCHO 東京新宿メディカルセンター、JCHO 東京山手メディカルセンター、JCHO 東京城東病院、JCHO 千葉病院	